



第43卷 第4号

史学・地理学・考古学

唐代の塩商.....	横山裕男(1)
トッキーデーデースの歴史記述の意図.....	永井康視(19)
——κτῆμα ἐς αἰεὶ をめぐって——	
公田について.....	泉谷康夫(45)
最澄の論証を通じて見た南都教学の傾向(下).....	藺田香融(69)
干拓と漁民(下).....	由比滨省吾(92)
——児島湾の場合——	
研究ノート	
近世初頭における都市貴族の生活.....	村山修一(127)
資料紹介	
鳥羽僧正範俊解.....	秋宗康子(140)
書評	
織田武雄著：古代地理学史の研究.....	野間三郎(146)
——ギリシヤ時代——	
増淵龍夫著：中国古代の社会と国家.....	河地重造(149)
田村円澄著：日本仏教史研究(浄土教篇).....	児玉識(156)
大江志乃夫著：明治国家の成立.....	池田敬正(162)
学界消息・会告	

史学研究会

京都大学文学部内

京都大学文学部東洋史研究室
東洋史研究会

手であつたし、後にも行塩地分内であれば思うままであつたからである。元和・長慶頃の米価から考えると郷村農民の塩購入に費された負担は更に加重されたであらう。「賒貸」の結果は塩商の下に、担保物件たる田産・人戸が集中することとなり、宋代以後に於ける大土地所有形態がその下地をつくつて行くことになつたと考えられる。塩商は更に節鎮の莊田・碾硯の管理人、或は職掌人となつて自己の財産をその名下に影占して朝廷の把握を逃れようとした。こうして、朝廷の税収は頓減し、多くの税目がたてられたにも拘らずその収入額は一向にふえず、給を節鎮の進奉にあおいでその半独立化を容認せざるを得ない立場に一步一步おいつめられて行つた。

商人に対する、節鎮の関税、茶税と茶商等についてはいずれ稿を更めて論考したいと考えている。

執筆 者 紹 介

横山裕男	京都大学大学院学生
永井康視	京都大学大学院学生
泉谷康夫	京都大学大学院学生
藺田香融	関西大学助教授
由比浜省吾	岡山大学助教授
村山修一	大阪女子大学教授
秋宗康子	京都大学大学院学生
野間三郎	金沢大学教授
河地重造	大阪市立大学講師
児玉識	山口県立下松高校教師
池田敬正	京都大学研修員

会 告

一、アンケートについて

前回の会員名簿発行から、すでに五年を経過いたしましたので、本年末に新会員名簿を発刊いたします。つきましては、同封しました用紙にて、御住所・御氏名・年齢・御専攻をお知らせ下さい。

併せて、『史林一』に対する各位の忌憚のない御意見を御聞かせ下さい。『史林』編集の参考とさせていただきます。

一、社会科教科書の検定に対する声明について

本会におきましては、最近の社会科教科書の検定方針について検討を加えました結果、このまま放置すれば、学問思想の自由をおびやかすおそれがあり、この際、警告を発することは、本会の目的達成のために必要であるとの結論に達し、史学会の提唱する左記声明書を発表することに同意いたしました。なお声明書は、去る五月九日、史学会以下四学会代表によって、文部省内藤初中等教育局長に手渡されました。

声 明

文部省は、最近あたらしい学習指導要領に基ついて、社会科歴史教科書の検定を実施しているが、これについては種々の議論がなされている。たとえば、検定の過程においてとられていく口頭による修正意見の伝達もそのひとつで、この方法には少なからぬ検討の余地がある。またわれわれは、現在の検定方針が史実検討の枠をこえて、歴史事象の解釈にまで及んでいるのではないかと疑念をもつものである。

このような傾向は、歴史解釈の多様性に制限を加え、教科書を画一化するおそれがある。このことは、次代の国民の思想の貧困化をまねき、また研究と思想の自由を脅かす懸念があるといわざるをえない。われわれは、右のような危険があることを指摘して、ここに、文部当局の反省と、検定制度の再検討とを強く要望するものである。

一九六〇年五月三日

- 大阪 歴史学会
- 大塚 史学会
- 史学研究会
- 史学研究会
- 社会経済史学会
- 土地制度史学会
- 日本史研究会
- 歴史学研究会
- 早稲田大学史学会

編 集 後 記

著さもいよいよ本格的になつてまいりましたが、史学研究会会員みなさまがたにはその後も御清祥のことと存じます。四三巻四号をおとけすることになりましたが、編集部といたしましたのは、『史林』のより一層の発展をはかるべく紙面の充実に苦心を重ねております。今回はアンケートを試みてみることにいたしました。つきましては編集の参考にさせていただきます。なるべく多数の御回答をお寄せ下さいませようお願いします。

思えば五月半ば以来、国内全体をゆさぶる事件がつきつきとおこりました。その余波はなお続いており、これからも続いてまいりましょう。わたくしたち歴史家も深く思いをいたすべき時でございます。 (中村幹雄)

史 林

(第四三巻第四号)

一九六〇年六月二十五日印刷
 一九六〇年七月一日発行
 定価一八〇円

発行所

京都市左京区吉田本町
 京都大学文学部内

史 学 研 究 会

理事 長 宮崎市定
 編集 主任 赤松俊秀

印刷所

京都市下京区西七条御所内内町三三九
 中村印刷株式会社

THE SHIRIN

or the

JOURNAL OF HISTORY

Vol. XLIII, No. 4

Jul., 1960

CONTENTS

Articles :

- Salt Merchants in the *T'ang* 唐 Dynasty *H. Yokoyama* (1)
Thukydidies' Intention in Writing History *Y. Nagai* (19)
On *Kôden* 公田 *Y. Izumiya* (45)
The Tendency of *Nanto* 南都 Buddhism represented
By the *Saichô's* 最澄 Dogma (II)..... *K. Sonoda* (69)
Reclamation and Fishermen(II) *S. Yuihama* (92)
—in the case of *Kojima Bay* 児島湾 in the
Okayama 岡山 prefecture—

Notes:

- Life of City Nobles at the Begenning of the
Tokugawa Era *S. Murayama* (127)

Book Reviews and News

Published

by

THE SHIGAKU KENKYUKAI
(*The Society of Historical Research*)

Kyoto University, Kyoto, Japan